



子どもの姿に感動する大人に

校長 小俣 和也

今年の夏は例年以上に厳しい暑さが続いています。子どもたちは、思い思いの夏休みを過ごし、元気に学校に戻ってきました。どの子も、少したくましくなったように感じます。

毎年夏に、沖縄の慰霊の日、広島・長崎の原爆の日、終戦の日に合わせて報道がされます。戦争経験者や遺族の方々が年々少なくなり、伝えていく活動の今後が懸念されていますが、平和について考え、今の自分の生き方を見つめることは大切なことだと思います。今の日本は平和ですが、世界では、今もどこかで戦争が起きていることがニュースで流れています。生きていること、そして、やりたいことができる幸せを感じ、毎日を大切に過ごしたいと思います。

さて、日頃お忙しい保護者の皆様も、夏休み期間中に、お子さんと一緒に過ごす時間をもつことができたのではないのでしょうか。地域活動でもラジオ体操や学校キャンプが行われました。様々な活動を通して、「えっ、〇〇ができるようになったんだ」とか「こんなことが言えるんだ」、「何だか頼もしくなったなあ」など、お子さんの成長を感じたことでしょうか。それは、大きな喜びであり、感動的なものだったに違いありません。私たちはこうした子どもの姿に感動する大人でありたいと思います。なぜなら子どもの素晴らしさにふれることができ、その子の新たな良さや力、これから期待できる可能性などが見えてくるからです。では、子どもの姿に感動する大人であるためには、日頃どのようなことを心がけたらよいのでしょうか。私は、次の2点が大事だと考えます。1点目は、子どもに寄り添った目を向けることです。日常生活の中には、子どもたちの頑張りやよりよい変化、すてきな表現などがあふれています。これらを敏感にキャッチすることができるように、寄り添って見守ることで、その子の頑張る姿や生き生きと取り組む姿に心を揺さぶられ、感動へとつながります。2点目は、子どもの思いや考えを大切に「待つ」姿勢をもつことです。忙しい、自分がやった方が速い、失敗すると後が大変などの理由で、つい大人が手を出し「待つ」ことをしないと、思いや考えの実現に向けた子どもの言動は止まってしまう。「待つ」ことで安心して表現できる雰囲気生まれ、アイデアを巡らしたり、試行錯誤や挑戦を繰り返したりと、大人の想像を上回る感動的な子どもの姿を見ることができます。子どもの姿に感動した大人は、感動した理由や素晴らしさをその子に伝えます。このことは、子どもの自己肯定感を高め、前向きな行動を引き出し、一層の成長を図るプラスの循環を生み出します。

学校では、2学期も教職員が子ども一人一人と進んでかわり、「待つ」ことを大切にし、一生懸命に頑張る、自分で考えて判断する、新たな発想を生み出すなど、子どもたちのすてきな姿に感動しながら、成長を育んでいきます。



【重点目標の取組について】

よく考え進んで学習する	明るく思いやりのある	進んで体をきたえる
実体験を伴う深い学び 本校では、実体験を伴って児童が主体的に学習できる授業を意図的・計画的に展開しています。6月に1年生が「そらまめの皮むき」、7月に2年生が「とうもろこしの皮むき」を行いました。更に、その食材が給食に出ることで、自分の活動が多くの人々の食につながっているという実感も得ることができました。	安心して学校生活を送るために 教員だけでなく、多くの支援員の方々が子どもたちに寄り添い、支援をしています。また、子どもたちがスクールカウンセラーに相談できる環境も整えています。スクールカウンセラーは保護者の方からの相談も受け付けていますので、何かありましたらご連絡ください。	そしエク（夏休み Ver） 2～6年生対象に、「そしがやエクササイズ～夏休みバージョン～」という課題を出しました。7日間は家で運動し、健康な体づくりに取り組んだことと思います。これをきっかけに進んで運動に取り組む、暑さに負けない体を作ってほしいです。